

2013特別見学ツアー報告書

[本山寺/三豊市]

もとやまじ

仁王門/重要文化財/鎌倉時代/八脚門形式



国宝 本山寺本堂

瀬戸内沿岸地方の折衷様建築を示す、鎌倉時代の建物で、寄棟造り本瓦葺き屋根の線がなだらかで美しい。桁行五間、梁間五間で、堂内は外陣、内陣（広く後陣〈狭く〉を自由におさめている点）が極めて功的で、これが平面的特徴である。仏壇および厨子も当初のもので、造形的にもすぐれている。

重要文化財 仁王門

鎌倉時代の建物。正面三間奥行二間の切妻造りで、本柱四本の前後に八本の控柱があるので八脚門ともいう。組物・肘木・虹梁・冠木などに和様を主体として神宗様や天竺様式を組み合わせて、新しい様式を見せて美しく、他に類例が少ない貴重な建物である。



柱の下部に礎盤を設ける禅宗様を取り入れている



和様を主体にして大仏様・禅宗様を織り交ぜた折衷様とされる



肘木の両端は禅宗様の象鼻に似た絵様線形がある/木鼻の上には大仏様の皿斗が用いられている



冠木が両端の本柱を貫いて、外側に長く突出し、その上に禅宗様の葺束が用いられ、虹梁には袖切眉形を施している



境内側から見る



さて、仁王門から本堂方向を見る



正面が本堂/四国霊場第七十番札所となっている



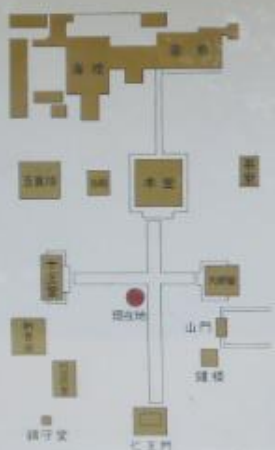
これが本堂/国宝/鎌倉時代/瀬戸内沿岸地方の折衷様という8/本棟の短い寄棟造で屋根からくる重苦しさを抑えて全体のバランスを整える手法で、鎌倉時代中期以降によく見られるという



瀬戸内海沿岸地方の建築が、和様の上に強く大仏様の構造的手法を取り入れてここに新生面をひらいたのは、東大寺再建の責任者であった重源が、瀬戸内海沿岸地方に足跡を印していることに大いに関係があるとのこと

本山寺本堂

寺伝によると、弘法大師の一夜建立といわれているが、現在の本堂は、二九一年（正応四年鎌倉時代末）に佐々木氏信の寄進を得て、一三〇〇年（正安二年鎌倉時代末）心導上人の代に建て替えられたものである。古文書などは、一八五四年（嘉永七年江戸時代末）の火災にあって現存しないが、本堂の棟札や礎石の墨書などからみても、鎌倉末期に建立されたものであることは明らかである。大正十三年特別保護建造物に指定され、昭和二十七年鎌倉建築として復元工事を行い昭和三十年国室に指定された。
また、四国霊場第七十番札所として年中参拝者でにぎわっている。



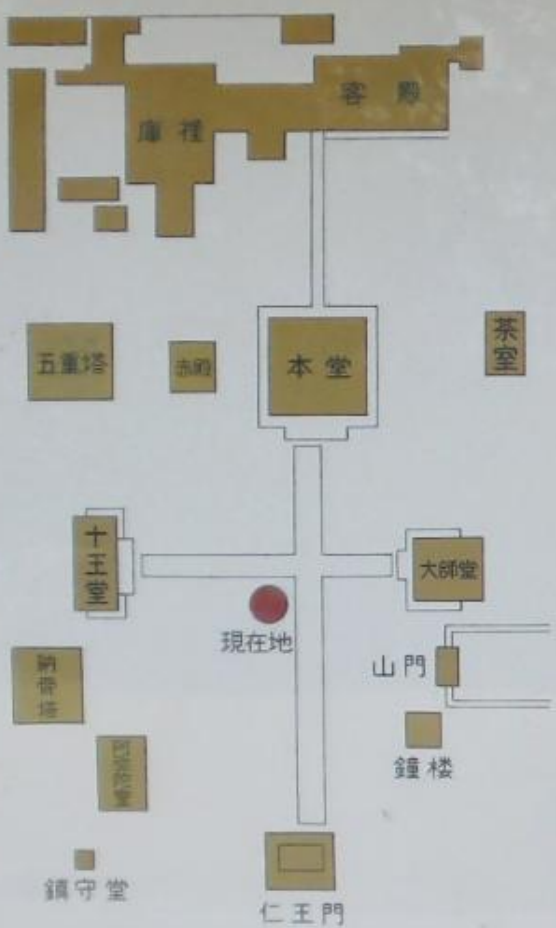
本山寺境内略図

昭和五十九年三月 香川県

本山寺本堂

寺伝によると、弘法大師の一夜建立といわれているが、現在の本堂は、二二九一年（正応四年鎌倉時代末）に佐々木氏信の寄進を得て、一三〇〇年（正安二年鎌倉時代末）心導上人の代に建て替えられたものである。古文書などは、一八五四年（嘉永七年江戸時代末）の火災にあつて現存しないが、本堂の棟札や礎石の墨書などからみても、鎌倉末期に建立されたものであることは明らかである。大正十三年特別保護建造物に指定され、昭和二十七年鎌倉建築として復元工事を行い昭和三十年国宝に指定された。

また、四国霊場第七十番札所として年中参拝者でにぎわっている。



本山寺境内略図

昭和五十九年三月

香川県

正面



正面は広い向拝をもつ



右手後方から見る



左手後方から見る



左側面/軒下の小壁の通肘木と組物が作りだす造形は日本建築独特の軽快感をもたらすのだという



庇柱と側柱との間は長い虹梁で繋いでいる



蔀戸が見てとれる



組物は出組/通し肘木と中備は間斗束の上に葺股を置いている/前面は蔀戸





側面/棧唐戸



通し肘木と中備は間斗束の上に葺股



組物は出組











内陣と外陣は菱欄間と格子戸で隔てられている



外陣には入側柱がある(左手)、中世でもやや古い形式という



向かって右側にも入側柱がある(置物の後ろ)



さて、次は五重塔/大正2年の再建





軒の逡減率は少ない





中央間は棧唐戸、脇間は連子窓





梵字入りの墓股



阿弥陀堂



鎮守堂/香川県指定文化財



鎮守堂 善女龍王像

香川県指定有形文化財

本山寺鎮守堂は昭和五十九年の弘法大師入定一千五十年の記念事業の一つとしての修理解体中に、天文十二年、天文十六年の墨書が棟木や肘木にあることが発見され、急速に文化財建造物として木格的に根柢修理されました。現在、香川県下では国宝、重要文化財に指定されている木造建造物は二十八棟あり、当鎮守堂は年代順にみても、その中で九番目に位置し、建文年代が明らかなものとしては五番目に入る、たいへん貴重な建造物であります。

善女龍王像は当鎮守堂の中に安置されていたもので、南北朝から室町時代初期に作られたものと思われれます。この時代の彫像としては佳品として評価できます。善女龍王は諸雨秘法の靈神で弘法大師が京都神泉苑において雨請いの修法を行った折りに、その勧請によって姿を表したといわれています。画像は高野山などに伝わっていますが、彫像の作例は現在まで紹介されておらず、本像はたいへん貴重なものです。



平成九年 月 日

三間社流造/17世紀末の建造物とされる









十王堂







大師堂







こんな石造物もあった



赤殿(大日堂)











山門







境内側から見る



鐘樓







納骨塔か？



立派な宝篋印塔



霊廟か？



参考ホームページ

http://www.city.mitoyo.lg.jp/forms/info/info.aspx?info_id=457

<http://www.kokuhoworld.com/114.html>

<http://www010.upp.so-net.ne.jp/teiryu/Kg01.html>

<http://www.geocities.jp/kawai5510/kagawa-motoyamaji.htm>

<http://www.nbn.ne.jp/~club88/0170.htm>

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%AC%E5%B1%B1%E5%AF%BA\(%E4%B8%89%E8%B1%8A%E5%B8%82\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9C%AC%E5%B1%B1%E5%AF%BA(%E4%B8%89%E8%B1%8A%E5%B8%82))

<http://azusamaya.web.fc2.com/70.htm>

<http://ogino.sitemix.jp/shikoku/kagawa/mitoyo shi/motoyamazi/index.html>

<http://45988.web.fc2.com/junrei/70/70z.htm>

<http://wilderness.sunnyday.jp/temple/motoyamaji/motoyamaji.htm>

<http://ww31.tiki.ne.jp/~mira/shikoku/kagawa70.html>

